

# 東松山市の古墳について

東松山市埋蔵文化財センター 佐藤 幸恵

東松山市は埼玉県内でも古墳の多い地域で、『埼玉県古墳詳細分布調査報告書』（1994年埼玉県教育委員会）で462基の古墳が報告されています。この報告以降も発掘調査で古墳跡が続々と発見され、現在では500基以上の古墳が確認されています。

関東地方では、一部をのぞいて、前方後方墳が最初に出現しています。埼玉県域でも最初に出現したのは前方後方墳で、松山台地東南端の舌状台地に立地する根岸稻荷神社古墳（古凍）が県内で最も古い古墳と位置づけられています。この古墳は、出土した土器より3世紀後葉に築造されたと考えられています。3世紀末葉から4世紀前葉には吉見丘陵南端部尾根上に山の根古墳（吉見町）が築造されます。この後も、都幾川の沖積地を臨む高坂台地北西部に諏訪山29号墳（西本宿）、東松山台地東部に天神山古墳（柏崎）、高坂台地北東部に高坂8号墳（高坂）などの前方後方墳が築造されました。このように、東松山市から吉見町にかけては、前期古墳である前方後方墳が多いという特徴があります。また、どの古墳に副葬されたのかはつきりはしませんが、古墳時代前期の遺物として、高坂古墳群内で三角縁神獣鏡が見つかっており、この地域が畿内の勢力との強い結びつきがあったことを窺わせます。

4世紀後葉になると、県域でも前方後円墳が現れます。この項ではあえて將軍塚古墳には触れませんが、市内では、諏訪山古墳（西本宿）が築造されます。この諏訪山古墳以降、市域ではしばらく前方後円墳が築造されなくなります。代わって比企丘陵北東部の尾根上に登場したのが、平面形が帆立貝の形に見える帆立貝形古墳の雷電山古墳（大谷）です。雷電山古墳は三段築成で、埴輪列が確認されています。埴輪は、他に例を見ない特異なもので、県内最古の埴輪に位置づけられています。埴輪の検討から、雷電山古墳は5世紀初頭の築造と考えられます。

雷電山古墳以降、市内で特筆すべき古墳はしばらく円墳となります。5世紀中葉の諏訪山33号墳（西本宿）からは、表面に横方向のハケメを施すヨコハケ調整が行われた埴輪が出土しています。これは畿内の影響を受けたもので、畿内的な埴輪としては市内最古のものになります。市野川を北に臨む東松山台地の北縁部に所在する東耕地3号墳（加美町）からは、5世紀後半の横矧板鋌留短甲が出土しました。県内では発掘調査による初めての出土になります。百舌鳥古墳群、古市古墳群（大阪府）を形成した畿内の勢力が、地方の新興首長層を取り込むために供給したものと考えられているものです。このほか、5世紀代の古墳としては、水鳥形埴輪が出土した権現塚古墳（柏崎）、東日本南部に点在する貝輪系の環体に多数の鈴を配した大型の青銅製の腕輪である鈴付腕輪が出土した諏訪山1号墳（西本宿）などがあります。

5世紀末から6世紀初頭に築造された高坂4号墳は帆立貝形古墳です。この後、6世紀代には、下松5号墳（松本町）、おくま山古墳（古凍）、岩鼻遺跡第6次調査2号墳（松山）など帆立貝形の古墳が築造されています。下松5号墳では「弓を担ぐ人物埴輪」、おくま山古墳では「盾持人埴輪」が出土しています。また、6世紀代には北部比企丘陵の三千塚古墳群（大谷）の中に、弁天塚古墳、長塚古墳、秋葉塚古墳などの前方後円墳が築造されています。円墳では、三千塚古墳群第Ⅶ支群5号墳より、古墳時代後期に下毛野（栃木県）や上毛野（群馬県）に多数分布している「低位置突帯埴輪」が出土しています。若宮八幡古墳（石橋）の主体部は、二段築成の大型の円墳で凝灰岩による切石切組積みで構築された胴張りを有する複室構造をもつ横穴式石室です。明和（1764～1771年）の頃から開口しており、副葬品はほとんど失われています。冨塚古墳（下唐子）の主体部は凝灰岩の切石を用いた複室構造の横穴式石室で、金環や銀環、水晶製勾玉や翡翠製勾玉などの装身具、鉄鏃や刀子などの武具、杏葉や雲珠などの馬具、須恵器など、多くの副葬品が出土しました。附川1号墳（石橋）の主体部も若宮八幡古墳と同様に、凝灰岩の切石を用いた胴張りを有する横穴式石室です。また、7世紀前期頃に築造された円墳である古凍4号墳（古凍）の周溝外側に施設された3基の土坑より、それぞれ馬具が出土